

美濃加茂市地域公共交通活性化協議会



- 市民の健康増進のため、中長期的な視点で公共交通の充実に着手
- 路線再編や、住民や地元企業等と連携した利用促進により、利用者数が5倍強に増加
- 地域懇談会を継続的に実施し、住民が提案できる仕組みを確立

(取組の概要)

1. 多様な主体の実質的参画

- (1) 地域懇談会を継続的に開催し、住民・利用者のアイデアを取り入れて改善に繋げている
(例) 通学利用に応じたダイヤ設定、「夜便」の実証運行の実現、買い物・病院へのアクセス利便性向上など
- (2) 「ぎふ清流里山公園」の観光利用について、関係者と連携して利用環境改善や利用促進に取り組んでいる
→バスでの公園来訪者が約3倍に増加

2. 創意工夫

- (1) 全国でも先駆的に、QRコードによるキャッシュレス化や、SNS(LINE)を活用したバスロケシステムを導入し、高齢者以外の利用も視野に入れ市民の移動手段を確保。
- (2) 市民まつり、選挙の期日前投票の期間、運転免許の返納後の移動支援などの機会に運賃を無料化し、バスでのお出かけを促進
- (3) 菓子製造企業がコミバスをデザインした菓子を販売し、その売上げの一部を市へ寄付、利用促進にも寄与。

3. 自立性・継続性

- (1) 路線再編で通学に配慮したきめ細かなダイヤ設定をしたため、市内高校へのバス通学利用が、再編前と比較して約6.5倍に激増
- (2) 市の事業費(約1.5億円)は県内平均額より低く、再編前と比較して利用が約5倍に増加していることから投資効果は高い
- (3) 市の総合計画で「市民の健康増進」を掲げ、バス利用により徒歩やコミュニケーションの機会を増やし、医療費の削減など中長期的なクロスセクター効果に着目して、市長の強いリーダーシップのもと官民一体で住民や来訪者が公共交通を使いやすい環境づくりなど、中長期的な視点で取組を進めている。
⇒財政難から地域公共交通の縮小を余儀なくされている全国の模範となる取組



市広報誌での連載



地域懇談会「バスとまちを考えるおしゃべり喫茶」



- ・概ね地区ごと(5グループ)で討議
- ・大学生がファシリテーターに

※H29.10に路線再編を実施
※R1年度は10万人達成予定

キャッシュレスやバスロケシステムの導入

企業との連携



バス乗車にラインペイ



美濃加茂市地域公共交通活性化協議会

公共交通ネットワーク概要図



●地域の特性・背景

- ・美濃加茂市の人口は、約57,332人。(R2.3.1現在)
- ・東海環状自動車道他、国道4路線が交差。
- 中心市街地にはJR、長良川鉄道、民間路線バス等が乗入れる「美濃太田駅」があり、交通の要衝。